

第九條

歯科醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ薬剤ヲ交付スルトキハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者

第十條

地方長官ハ歯科醫師法第十條ノ處分ヲ必要ト認ムルトキハ内務大臣ニ貝申スベシ

第十一條

歯科醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スベシ

第十二條

歯科醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ捺印ノ上領置シ期間満了ノ後之ヲ還付スベシ

第十三條

左ニ掲タル場合ニ於テ族籍、氏名、事由其ノ他必要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス

一 歯科醫籍ニ登錄シ又ハ抹消シタルトキ

一 免許證再下付ノトキ

一 歯科醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ

第十四條 第三條第一項第四條第一項第三項、第六條第二項、第七條及第八條第一項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第九條、第十一條及第十二條第一項ニ違背シタル者ハ貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本則ハ明治三十九年法律第四十八號歯科醫師法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○歯科醫師法ニ依リ免許ヲ與フル者ニ關スル件

(明治三十九年九月十一日勅令第二百四十五號)

歯科醫師法第一條第三號ニ依リ免許ヲ與フルハ外國歯科醫學校ノ卒業證書又ハ外國ノ歯科醫師免許證ヲ有スル者ニシテ内務大臣ニ於テ適當ト認定シタル者ニ限ル

○歯科醫師會ニ醫師會規則ヲ適用スル件

(明治三十九年十一月十七日内務省令第三十四號)

歯科醫師會ニ關シテハ明治三十九年十一月内務省令第三十三號醫師會規則ヲ適用ス

○醫術開業試驗規則

(明治十六年十月第三十四號布達)

第十五條 本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ施行ス

第一號

願書式(用紙美濃紙)

醫術開業試驗願

印 紙

本 籍
居 所

出願試験ノ種類

前期(齒科)試験又ハ後期(實地)(齒科學成)試験

試験ヲ受クベキ地 何 地

氏 年 月 日 生

右試験相受度別紙履歷書戸籍謄本及寫眞相添ヘ此段相願候也

年 月 日

右

氏

名印

第二號 文部大臣宛

履歷書式(用紙美濃紙)

族 籍

氏 年 月 日 生

受驗資格

一明年何年何月ヨリ何年何月マテ何府何郡何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就キ何學修業

一明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府何郡何病院ニ於テ又ハ開業醫何誰ニ就キ何科實習

一明治何年何月何地ニ於テ前期試験(後期學說試驗齒科學說試驗)ヲ受ケ及第證書(學說合格承認

證) 第何號ヲ受ク
受驗資格以外ノ學業

一明治何年何月何府縣小學校ニ於テ高等小學科卒業又ハ第何學年修了

一明治何年何月何府縣中學校ニ入り何年何月卒業又ハ第何學年修了

一明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何學校ニ於テ又ハ何誰ニ就キ何學修業

一明治何年何月ヨリ何年何月マテ何府縣何學校ニ於テ何職ヲ從事シ又ハ何業ヲ營ム

右之通相違無之候也

明治何年何月何日

前記受驗資格ノ確實ナルコトヲ保證ス

明治何年何月何日

何病院長又ハ教師

氏

名

族籍
名印

○醫術開業受驗人心得

(明治十六年十二月内務省告示甲第二十六號)

第一條 醫術開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試験舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルヲ得ベシ

第二條 醫術開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三十四號布達醫術開業試験規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳へ差出スベシ

第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタリ期限迄ニ試験舉行ノ地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳へ申出ツベシ

第四條 試験手數料ハ試験舉行ノ前日迄ニ醫術開業試験場ヘ相納ムベシ

第五條 試験場ノ取締上不都合ト認ムベキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルベシ

第六條 試験中一科以上缺席ノ者ハ其期ノ試験ヲ終フルコトヲ得ズ(十七年十二月内務省甲第三十
五號告示ヲ以テ改正)

○改正歯科醫師試験規則

第一條 歯科醫師試験ハ毎年二回之ヲ行フ

試験ヲ施行スベキ地方及試験期日ハ文部大臣之ヲ告示ス

第二條 試験ヲ分テ學說試験及實地試験トス

學說試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

解剖學(組織學ヲ含ム)

生理學

藥物學

病理學(細菌學ヲ含ム)

口腔外科學

以上各科目ノ試験ハ歯科醫師ニ必要ト認ムル範圍及程度ニ止ム

歯科治術學(歯科矯正學ヲ含ム)

歯科技工學

學說試験ニ合格シタル者ニアラザレバ實地試験ヲ受クルコトヲ得ズ

第三條 學說試験及實地試験ハ分テ之ヲ受クルコトヲ得ズ

第四條 歯科醫師試験ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ修業年限三箇年以上ノ歯科醫學校ヲ卒業シタルモノニアラザレバ之ヲ受クルコトヲ得ズ

第五條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ズ

一 無期又ハ六年以上ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者及舊刑法ノ重罪刑ニ處セラレタル者但シ復權ニ依リ醫師ノ免許ヲ受クルノ資格ヲ回復シタル者ハ此ノ限りニ在ラズ

二 聾者、啞者及盲者

第六條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫事ニ關シ罰金ニ處セラレタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ許サムルコトアルベシ

第七條 試験ヲ受ケントスル者ハ受驗願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ毎年一月、六月中ニ試験ヲ受クベキ地方長官ニ提出スベシ但シ實地試験ノミヲ受ケントスル者ハ居住地ノ地方長官ニ提出

スマシ

一 履歴書(第二號書式)

二 身分ニ關スル本籍地市區町村長又ハ之ニ準ズベキ者ノ證明書(第三號書式)

三 第四條ノ要件ニ關スル當該學校長ノ證明書

四 寫眞手札形(縱約四寸横約二寸五分)トシ出願前六箇月以内ニ脱帽ニテ撮影年月日、族籍、氏名ヲ記載スベシ

地方長官ハ前項ノ書類ヲ調査シ二十日以内ニ之ヲ文部大臣ニ達スベシ
第八條 試験出願者ニシテ第五條又ハ第六條ニ該當スルモノアルトキハ地方長官ハ之ヲ文部大臣ニ

具申スベシ

第九條 試験ヲ出願スル者ハ手數料トシテ金十五圓(學說試験ト實地試験ヲ分テ出願スル者ハ各十圓)ヲ納付スマシ

第十條 試験ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ付與ス

第十一條 合格證書ヲ失又ハ毀損シタルトキハ合格證明書ノ下付ヲ出願スルコトヲ得

前項合格證明書ノ下付ヲ出願スル者ハ手數料トシテ金一圓ヲ納付スマシ

第十二條 手數料ハ其ノ金額ニ相當スル収入印紙ヲ願書ニ貼付シテ之ヲ納付スマシ
既納ノ手數料ハ之ヲ還付セズ

第十三條 試験ニ關シ不正ノ行爲アリタル者ハ受験ヲ停止シ又ハ其ノ試験ヲ無効トシ尙期間ヲ定メ
テ試験ヲ受クルコトヲ許サムルコトアルベシ

附 則

本令ハ大正十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

齒科醫師試験ニ關シテハ本令施行ノ日ニ至ルマデ仍ホ從前ノ規定ニ依ル

第一號書式(用紙美濃紙)

齒科醫師試験願

印紙

本籍

居所

族稱

試験ノ種類

學說試験、實地試驗

又ハ實地試驗

實地試驗

受験地

私儀右歯科醫師試験相受度履歴書身分其ノ他ノ證明書、及寫眞相添ヘ此段相頗候也

年月日 氏名

年月日生

右 氏名
名印

第二號書式(用紙美濃紙)

履歴書

一何年何月何日中學校(高等女學校)ニ入學何年何月卒業
一何年何月何歯科醫學校ニ入學何年何月卒業
一何年何月歯科醫師試験ヲ受ケ學說試験ニ合格
右之通相違無之候也

年月日

右 氏名
名印

第三號書式(用紙美濃紙)

身分證明書

氏名

一府縣郡市町村番地華士族平民
戸主(何某何男女兄弟等)

一年月日生

一歯科醫師試験規則第五條又ハ第六條ニ該當スルコトノ有無(第六條ニ就テハ罪名及ビ處罰ノ程度ヲ記載スベシ)

一元何某年月日改氏名

右證明候也

年月日

府縣郡市區町村長 氏

名印

醫師届出ニ關スル件

明治三十九年九月内務省令第二十八號歯科醫師施行規則第七條第八條ニ依リ醫業又ハ歯科醫業開始ノ届出ハ甲號書式ニ因ルベシ又其休止廢止及診察治療ノ場所ノ異動並ニ住所變更ノ届出ハ乙號書式ニ據リ住所地ノ區長又ハ町村長（伊豆七島及小笠原島ニ在テハ其職務ヲ行フ者）ヲ經テ官廳ニ届出ヅベシ

前項ニ依リ届出ヲ爲スベキ事項ニ關シテハ明治三十四年七月東京府令第三十五號醫師藥劑師業務届出規則ヲ適用セズ

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス

甲號書式

醫師（又ハ歯科醫師）開業届

一 氏名 外國人ナレバ假片名ニテ記スペシ

二 男女ノ別 男又ハ女ト記スペシ

三 住 所 何縣郡市區町村大字番地（寄留又ハ同居者ナレバ其戸主ノ氏名トモ）

四 本 編 道廳府縣郡市區町村大字番地（同居者ナレバ其戸主ノ氏名トモ）ヲ記スペシ但シ本籍地住所番地ニ同ジケレバ「住所地」ニ同ジト記スペシ

五 年 齡 生年月日ヲ記スペシ

六 族 称 何廳府縣華士族又ハ平民ト記スペシ但シ外國人ナレバ「ナシ」ト記スペシ

七 業務ノ種別 醫師歯科醫師口中科院整骨科等免狀面記載ノ業務名ヲ記スペシ

八 免狀ヲ得タル理由 試驗及第舊試驗及第府縣立醫學校卒業大學卒業高等學校卒業官立醫學專門學校卒業外國語學校卒業奉職履歷從來開業從來開業醫子弟限地許可等ヲ記スペシ

九 免狀ノ番號及免狀下附年月日 免狀面ニ記載シアル番號及年月日ヲ記スペシ

一〇 開業ノ場所 何郡市區町村大字番地（同居ナレバ何某方ト記スペシ）診察所治療所又ハ診療出張所等但シ二箇以上ノトキハ之ヲ併記スペシ

一一 奉職ノ官公署 官公署ノ名稱ヲ記スペシ但シ奉職セザルモノハ「ナシ」ト記スペシ

一二 轉住ノ年月日 何年何月何日道府縣郡市區町村大字番地ヨリ轉居ト記スペシ但シ新タニ免

右御届候也

年 月 日

右 氏

名印

狀ヲ受ケタルモノハ本項記載ヲ要セズ

東京府知事宛

乙號書式(之ハ轉居又ハ治療所ノ變更廢止休止等ノ場合ノ届出書式ナリ)

醫業(又ハ齒科醫師)異動届

住 所

(轉居ハ舊住所ヲ此處ニ記ス)

氏

名

一 異動ノ事項 何々

二 異動ヲ生ジタル日 何年月日

右及御届候也

年 月 日

右 名

名印

(醫事法規終)

議會議事手續 京田政學士寄稿

議 案

◎發案 法律案、豫算案其他實衆兩院令ノ協賛ヲ要スルモノハ勿論貴族院令ノ改正案ノ如キモ亦議案ナリトス、而シテ兩院ノ發案權ヲ有スルモノハ法律案ニシテ其他ノモノハ政府凡テ發案權ヲ有ス、但シ法律案ニツキテモ勿論政府ハ發案權ヲ有ス、天皇大權事項ハ何人モ之ヲナスコト能ハズ

◎撤回 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得、議院ヨリノ提出議案ヲ撤回シ得ルヤ否ヤ明記ナシ

議案日程

議事日程トハ議事ノ順序ヲ日毎ニ定ムルヲ謂フ、而シテ其順序ハ政府案ヲ先ニス、但シ左記ノモ

ノハ日程ニ記載スルヲ要セズ、

一、勅語奉答、二、天機伺、三、慶賀、四、弔慰、五、請暇、六、

ナリ、而シテ日程ニ入ル前ニ於テ議長ヨリ之ヲ報告シ或ハ協議スルモノトス

委員及委員會

委員ノ種類ハ全院委員當任委員及ビ特別委員ノ三トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス、當任委員ハ事務ノ必要ニヨリ之ヲ數科ニ區分シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲メニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其任ニアルモノトス、特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲メニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ附託ヲ受クルモノトス、委員會ハ或特定ノ事項ヲ審査セシムル爲メ特定ノ人ヨリ組織セラル、本會議ノ豫備機關也、當任委員會ノ種類ハ一、資格審査委員會、二、豫算委員會、三、決算委員會、四、懲罰委員會、五、請願委員會

全院委員長ハ開會ノ初メ各院ニ於テ會期毎ニ定メ、他ノ委員長ハ各委員會ノ初期ニ於テ定ム、委員長理事共ニ故障アリテ委員會ニ出席シ得ザル時ハ委員ハ其決議ニヨリ委員會ノ一人ヲ推シテ委員

長代理トナス

當任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聽ヲ禁ズ、但シ委員會ノ決議ニヨリ議員ノ傍聽ヲ禁ズル事ヲ得

各委員長ハ委員會ノ經過及ビ結果ヲ議院ニ報告スベシ

政府ノ要求ニヨリ又ハ其ノ同意ヲ得テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

審査手續全院委員會ヲ開クニハ三分ノ一以上ノ委員ノ出席ヲ要シ他ノ委員會ノ時ハ半數以上ノ出席ヲ要シ出席者ノ過半數ヲ以テ決ス、可否同數ノ時ハ議長決ス

定足數

議事ヲ爲スニ一定ノ議員ノ出席ヲ要ス、此法定數ヲ定足數ト稱ス、我議院法ハ三分ノ一以上ノ出席ヲ要ストシ特ニ憲法改正案ヲ議スルトキハ三分ノ二以上ノ出席ヲ要ストセリ

議決

議決トハ議會ノ意思決スルヲ云フ、而シテ議會ハ多人數ニヨリ到底全員一致ノ意思ヲ得ル能ハザ

ルコトアルニヨリ多數決ヲ以テ決スルヲ今日一般ノ通則トニ、我國ハ出席者ノ過半數ヲ以テ決ス

トナシ特ニ憲法改正案ニ關シテハ出席者ノ三分ノ二以上ノ多數ヲ要ストセリ

議長及議員

議長ハ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス、議長ハ常任委員會特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得、但シ表決ノ數ニ與ラズ

議長ハ議場整理等ノ爲メ一時議事ヲ中止シ休シ休憩ヲ宣スルコトヲ得

議員發言ニ際シテハ議長何番ト自席番號ヲ呼ビ或ハ議長誰々ト我姓ヲ名乗リ發言ヲ求ムベシ、單

ニ議長議長ト呼ブノミニテハ議長各議員ノ發言ノ前後ヲ知ルニ苦シムヲ以テナリ

質問及ビ建議
議員政府ニ對シ質問ヲナサントスルトキハ三十人以上ノ賛成者アルヲ要ス、質問ハ簡明ナル主意

者ヲ作リ賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議院ニ提出スベシ
上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非ザレバ議題トナスコトヲ得ズ

懲罰ノ種類

一、公開シタル議場ニ於テ譴責ス、二、公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム、三、一定ノ時間出席ヲ停止ス、四、除名

議 會

法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スペシトアリ、法律案が所要ノ賛成者數ヲ得テ(三十人)議題トシテ提案セラル、ヤ之ヲ第一讀會ニ掛ク、第一讀會ニ於テハ辯明、質問ヲ許シ多ク委員附託トナル、委員會ニ於テ審議ノ結果ヲ委員長議場ニ報告ス、之ヲ第二讀會トス

第二讀會ニ於テハ逐條ヲ朗讀シテ之ヲ議決スルモノニシテ修正ヲ許スモノナリ、而シテ之ガ議決セラルレバ通常直チニ第三讀會ニ移ル、第三讀會ハ議案全體モ許否ヲ決スルモノニシテ文案修正更正ノ動議ヲ許サズ

但シ政府ノ要求若クハ議員十人以上ノ要求ニヨリ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

動 議

動議トハ議案ヲ發案スル場合ノ外凡テノ議題ヲ提出スルコトナリ
要件トシテ一人以上ノ賛成者アレバ足ル、次ノ場合ハ特定ノ數ヲ要ス

イ、豫算修正ハ三十人以上、ロ、豫算案以外ノ修正ハ二十人以上、ハ、上奏建議ハ三十人以上、ニ、讀會省略ハ十人以上、ホ、討論終結ハ二十人以上、ヘ、討論ニ入ルハ二十人以上、ト、懲罰ハ二十人以上、チ、全員委員開會ハ十人以上

種類

イ、上奏建議、ロ、懲罰、ハ、緊急事件、ニ、議案修正、ホ、全員委員會、ヘ、再議、ト、討論ノ際起ル動議

緊急事件ニヨリ議事日程ヲ變更スル等ノ事アリ、但シ過半數議員ノ承諾ヲ要ス、事緊急ニ屬スル動議ハ凡テ緊急動議ニシテ從ツテ動議ノ發言ハ何時ニテモ之ヲ爲シ得ベシ

注意

議事日程中修正案提出ノ場合、例ヘバ私案等提出ニ際シテハ議長ハ之ヲ議場ニ誦リ直チニ可否ノ決議ナトルベシ、コレ議事ノ進行ヲ圖ルガ爲メナリ
尙ホ一般集會社團結社等ニ於ケル決議ニ關シテハ總テ該會又ハ其社團結社ノ規則ニ從フモノナレバ必ズシモ帝國議會ノ議事手續ニ從フモノニ非ラズ

大正四年五月十八日印刷

定價金參圓

禁轉載複製

發行者

人無

東京府澁谷町字中澁谷三〇一

永澤

求

也

盛

印刷人

人無

東京市麹町區紀尾井町三番地

澤

求

也

盛

印刷所

人無

東京市麹町區紀尾井町三番地

澤

求

也

盛

發行所

人無

東京市麹町區富士見町六丁目三番地

真

求

也

盛

日本齒科醫學專門學校出版部

電話番號三一六〇番

振替口座東京二二八八八番

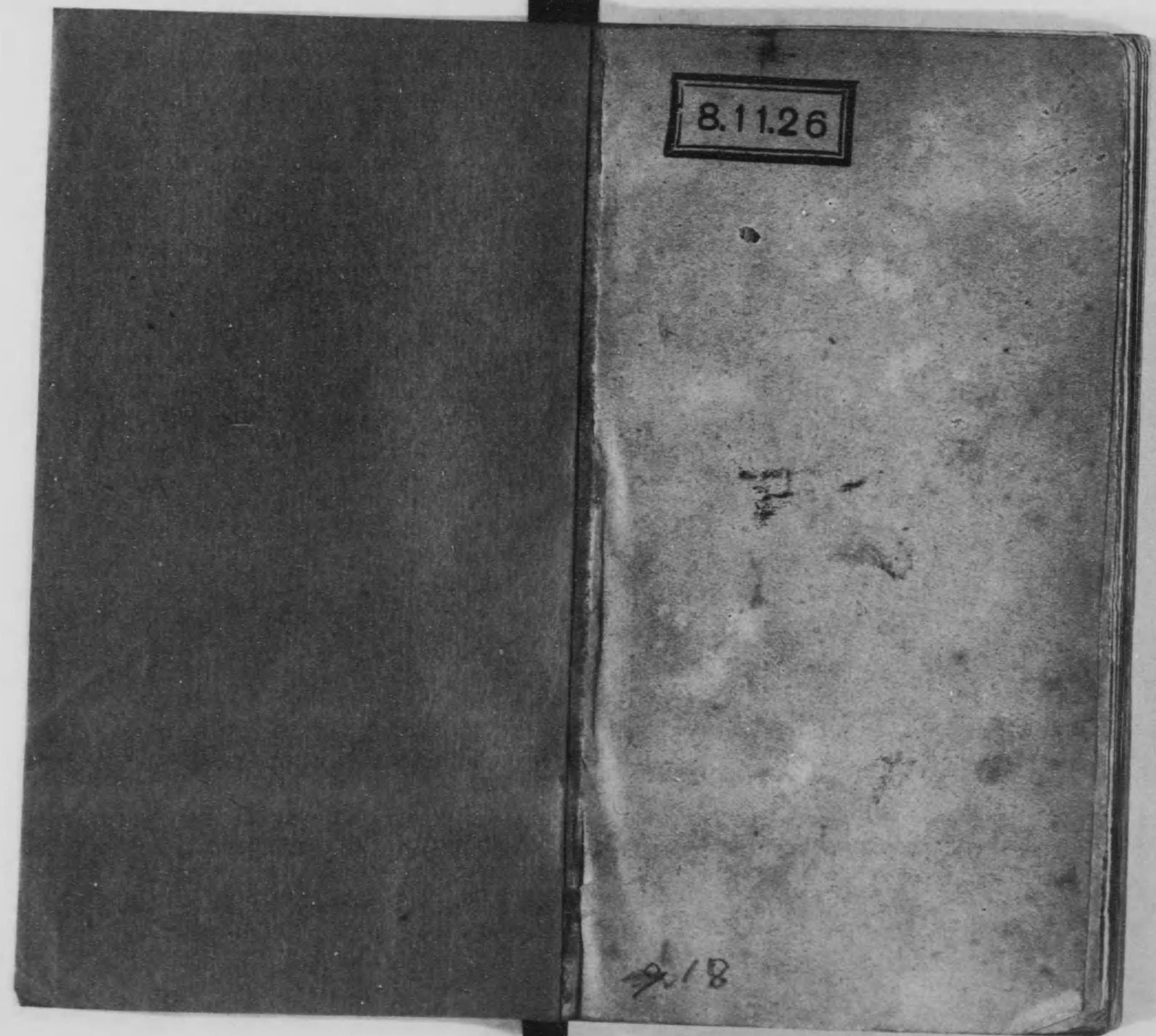
所賣發

町東町東町東京市六番地本郷區本富士書店
京市七番地京橋區南糸屋
市本地本郷四
丁目
町東京市日本橋區上橫

淺井光之助
小川松次郎
豐文堂

東京市神田區表神保
東京堂書店
大阪市東區淡路町四
丁目三八
町六ノ三
東京市麹町區富士見
淺野與市
東京市本郷區龍岡町
文榮堂書店

日本齒科商社



終

